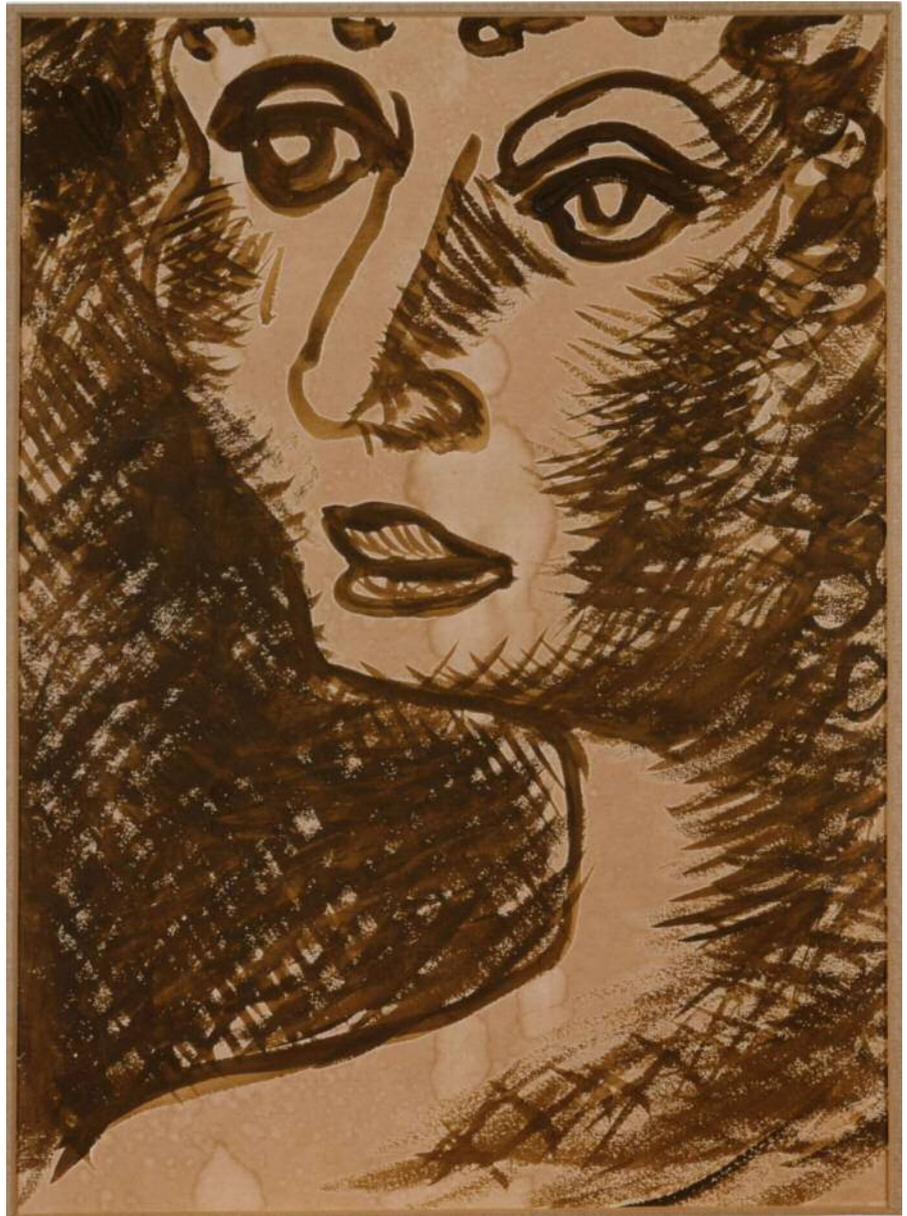


好太郎が死の際に描いたのは、  
まぎれもなく妻・節子の顔でした。



三岸好太郎《女の顔(絶筆)》1934年 グワッシュ、紙、額装 37.4×27.5

【節子の言葉】

茶のグワッシュ色で描かれた女の顔は絶筆となった。コウタロウシスの電報にかけつけた、名古屋の旅舎の、臨終の室に、この一枚の素描は残されていた。

この次は線の太い、たくましい絵を描くと私に語り聞かせた、これがそのもっとも健康的な決意を示す、次への飛躍であるというのか・・・。

数多の女の顔は次から次へとおびたゞしい量で生み出されたけれども、私は、この絶筆を抱いてアトリエに帰り泌々良人が画家であってよかった、この一枚のデッサンは千万無量の感慨へ誘なうもので、どれ程の対話を私は彼と交へたことであろう。

ついに好太郎の故郷・北海道へ。  
節子が最後まで手放さなかつた一枚の絵。



好太郎の《女の顔(絶筆)》を見る三岸節子 大磯のアトリエにて (1980年代後半)  
撮影 林寛子 (聞き書き 林寛子『三岸節子 修羅の花』講談社)

このたび、三岸好太郎・節子のご遺族一同から、三岸好太郎が死の際に妻・節子を描いた《女の顔(絶筆)》(1934年)が、北海道立三岸好太郎美術館に寄贈されることとなりました。

本作品は、1934年7月に名古屋の銭屋旅館(名古屋市西区御幸本町7丁目、現・名古屋市中区錦2丁目)で31才の若さで急逝した三岸好太郎(1903-1934)が、その臨終の客室に残したもので、妻・三岸節子(1905-1999)は好太郎との思い出の作品として終生手放すことはありませんでした。

本年、2人の出会いから100年を記念して企画された「貝殻旅行-三岸好太郎・節子展-」が開催されるにあたり、ご遺族一同から寄贈の運びとなりました。同展覧会で6月26日から、北海道立三岸好太郎美術館を皮切りに各巡回館で展示されます。

※一宮市三岸節子記念美術館には、令和4(2022)年2月19日(土)~4月10日(日)巡回予定。

## 「貝殻旅行―三岸好太郎・節子展―」巡回情報

- 北海道立三岸好太郎美術館  
2021（令和3）年6月26日（土）～9月1日（水）  
主催：北海道立三岸好太郎美術館  
STV札幌テレビ放送  
北海道新聞社  
協賛：株式会社北菓楼
- 砺波市美術館  
2021（令和3）年9月11日（土）～11月7日（日）  
主催：公益財団法人砺波市花と緑と文化の財団・砺波市美術館
- 神戸市立小磯記念美術館  
2021（令和3）年11月20日（土）～2022（令和4）年2月13日（日）  
主催：神戸市立小磯記念美術館  
産経新聞社
- 一宮市三岸節子記念美術館  
2022（令和4）年2月19日（土）～4月10日（日）  
主催：一宮市三岸節子記念美術館  
中日新聞社

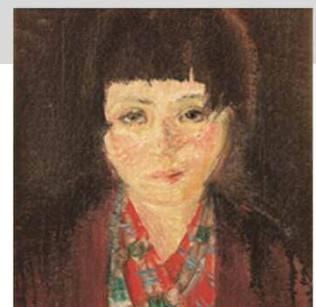
企画協力（各館共通）：産経新聞社

## 《女の顔(絶筆)》に関するお問い合わせ

- 北海道立三岸好太郎美術 五十嵐聡美  
〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西15丁目  
TEL：011-644-8901 FAX：011-644-8902  
mail：igarashi.satomi@pref.hokkaido.lg.jp
- 一宮市三岸節子記念美術館 長岡昌夫  
〒494-0007 愛知県一宮市小信中島字郷南3147-1  
TEL：0586-63-2892（一宮市内線 7780） FAX：0586-63-2893  
mail：migishi@city.ichinomiya.lg.jp



三岸好太郎《のんびり貝》1934年



三岸節子《自画像》1925年（部分）©MIGISHI